

# 白川わくわくランド ニュース

総合的な学習 4年 くぎの学習

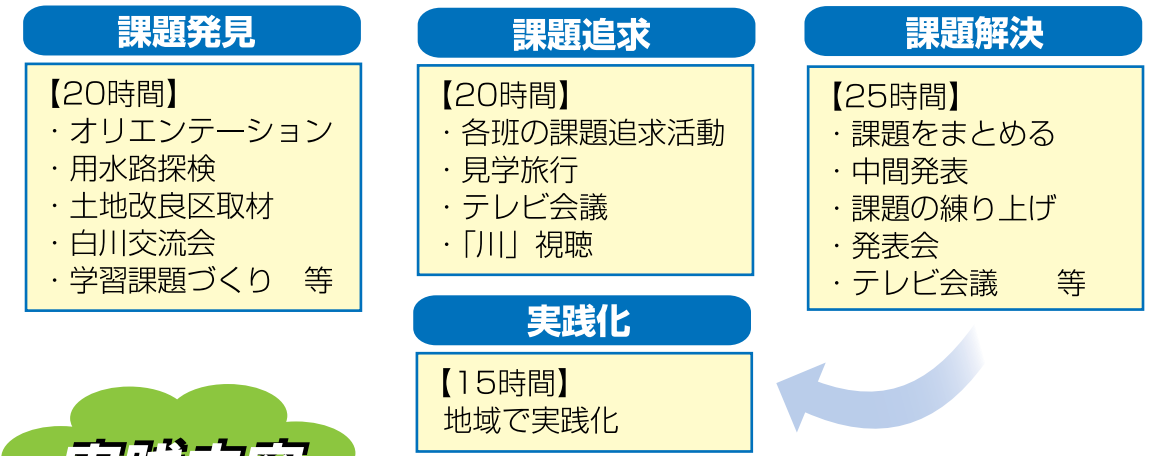
## 「私たちのくらしと川」 ～用水路探検を出発に～

平成十四年度から「総合的な学習の時間」がスタートしました。各小・中学校では地域の特性等鑑み、それぞれ特色ある創造的な学習が行われていることと思います。

今回及び次回(9号)は、久木野小学校4年生の実践報告を紹介します。久木野小学校4年生の総合的な学習の年間計画は、「テーマ学習」「情報」「英会話」から成っておりますが、「テーマ学習・くらしと川」をテーマにした環境学習を取り上げます。

### 実践報告 久木野小学校

#### 学習の流れ



#### 実践内容

**課題発見** 多くの体験活動(川遊び、用水路探検、白川交流会等)を取り入れ子どもたちの課題発見の手がかりとした。この活動で5つの課題が設定できた。これらの体験は、総合的な学習だけでなく、国語科や社会科・図工科などの教科学習とも結び付けた。特に社会科「きょうどに伝わる願い」は、学習が深まった。

- ・用水路探検  
学校を起点に用水路を辿り、その始まりである竹崎水源まで半日かけて歩き調査活動。  
田植えの時期で、効率的な田んぼへの水の引き込みや、道路をまたいだ用水路の仕組みなど、その巧みさに感激。
- ・川遊び  
近くの白川に、図工で行うストーンペインティング用の石拾いと川遊びを行う。
- ・白川交流会  
川遊びの場所で、地域の老人会の方と一緒に水質調査、水生生物観察、水鉄砲遊びを行った。



・土地改良区取材  
用水路探検でたくさん疑問をもって、土地改良区に取材に出かけ、用水路の話を聞く。

#### 課題追求

それぞれの課題解決に向けて、本やインターネットで調べる活動、アンケート、地域の方にインタビュー、ミニ水路作り等の活動を行った。また、白川わくわくランドでの白川下流域での調査活動や金峰山から白川河口域見学等を行った。



<白川わくわくランドで>

「課題解決」と「実践化」については次号で取り上げます。

### 白川の橋(4) 薄場橋



白川河口から4番目の橋。左岸の薄場町と右岸の新土河原町を結ぶ。白川にはめずらしいトラス橋で、昭和33年に完成している。  
長さ191m。  
「薄場」の町名は白川の渡し場を「臼場の渡し」と称したことにちなむ。薄場橋のすぐ下流に十八口堰があり農業用の取水が行われている。この堰の取入口の傍、白川土手の上に、薄場石堰碑がたっている。

## 50年前の洪水の爪痕表れる?!

現在、子飼橋右岸の護岸工事が行われているが、旧橋脚の土台の付近を掘削中に木白や柱、木材などが掘り出された。これらは、六・二六水害時のものと思われる。

今から五十年前の昭和二十八年、九州地方を襲った大雨は、白川流域にも言語を絶する悲惨な大災害をもたらした。そのなかで熊本市内の多くの橋が流される中、鉄筋コンクリート造りの子飼橋は流れることなく上流からの流木等を受け止めた。当時の子飼橋は、現在の橋のアーチの部分だが、その間に5本の橋脚があり、それにたくさんの流木、柱などがかりダム化したのである。

そのため、大江地区方面に流路をかえた白川は、左岸側の多くの住宅を一気に飲み込んだのである。白川流域の犠牲者は四百二十二名におよぶがそのほぼ半分の方がこの地区の方たちだったと言われている。

さて、その時かかった柱等が、子飼橋架け替えの際川底に埋もれたものと思われる。今回の工事で再び表れた大黒柱と思われる大きな柱や生活感がにじむ木白など、当時の災害を想像させるに足りるものである。

この中のいくつかは、白川わくわくランドに保存しておきたいと考えている。河川災害の学習の資料になれば幸である。



出てきた柱や木白



工事中の現場

